

中四国ブロック活動報告

松山赤十字病院
技師長 西田 史生

日時 平成25年3月16日（土）～17日（日）
場所 岡山赤十字病院 研修センター
内容 災害時における緊急被ばく医療及び測定実習

研修項目

第一部 福島第一原発災害医療に携わって

日本診療放射線技師会より放射線サーベイヤー派遣事業に7回参加した津山中央病院放射線技術部顧問の山本技師を講師に迎え講演をしていただいた。

住民のサーベイから始まり、遺体のサーベイ・福島第一原発の医務室での勤務の状況など実際の業務を写真を見ながらの説明があり、各現場での作業の様子がうかがわれた。

遺体検案前のサーベイに従事した者の中にはPTSD症状の出た人もいたと言う事であり大変な業務であったことがうかがわれる。

第二部 福島の現状と除染への取り組み

南相馬市生活圏除染作業に現在従事している、千代田テクノル社員による作業の方法と効果、除去土壌の管理と保管について講義された。

現在廃棄物の中間保管施設も決まらないまま仮置き場に置かれていることを考えると早期に国の方針を示してもらいたいと感じた。

第三部 サーベイメーターの使い方

研修会参加者による、タイベック作業服の着かた、GMサーベイメーターを使用し、被ばく住民を想定したサーベイの実施、タイベックを脱ぐ順序などの実習を行った。

東日本大震災から2年が経過したが、まだまだ収束はほど遠い。

現在も多くの人が、原発周辺で作業を続けている。今後、緊急被ばく医療の研修会や講義に積極的に参加し、放射線・放射性物質を扱う専門職として緊急被ばく医療に関わっていかねばならないであろう。

今回、研修会参加者37名、情報交換会に19名が参加した、各病院間の情報交換などが行われ、有意義な研修会であった。